

赤谷プロジェクト近況報告

環境教育関東ミーティングについて



ノスタルジックな会場予定の旧猿ヶ京小学校

環境教育関東ミーティングは、関東周辺で環境教育活動に取り組む関係者が環境教育に関する情報共有・研修・交流する機会として、平成16年度から開催され、今年で5年目になります。

今年度は、「環境教育関東ミーティング2008・AKAYA」実行委員会が主催、関東森林管理局等が共催し、「多様な自然の気づき方、伝え方、エコツーリズムへのつなげ方～生物多様性の保全活動と環境教育活動を考える～」をテーマに、11月28日（金）から30日（日）に開催される予定です。

実行委員会には、赤谷センター職員も実行委員として企画・立案段階から参加し、地元みなかみ町との調整など様々な準備を行っております。

7月21日（月）には、赤谷センター職員が会場予定地であるみなかみ町の旧猿ヶ京小学校に実行委員の方々を案内し、現地視察を行いました。

現地では、全体会や分科会の会場設定、参加者の動線、受付場所の決定等について幅広く検討を進めました。

また、当日のプログラムに予定している現地エクスカージョン（視察・巡視）の候補地として、旧三国街道周辺を案内し、プログラムの構成についても検討しました。

この環境教育関東ミーティングについては、詳細が決まりましたら、お知らせしていきたいと考えております。



実行委員会メンバーで現地検討

「第3回ムタコの日」の開催

「赤谷の森」の法師沢・ムタコ沢エリア（エリア3）は、地域の水源・温泉源を育てている森林が広がっている区域で、水源の森としての機能回復を目標としているエリアです。

このため8月3日（日）、エリア内を流れる重要な水源であるムタコ沢及び周囲に広がる森林の重要性について、地域住民の皆様により深い理解をして頂くため、昨年度に引き続き赤谷プロジェクト地域協議会が中心となって、「ムタコの日」が開催され、地域住民を中心に40人近くが参加しました。

当日は自然観察会と森林再生講座の2部構成で、自然観察会では赤谷プロジェクト植生管理ワーキンググループ委員の長島成和さんから、森林土壌と森林の水源かん養機能について、実際に土に水を染み込ませたり、土を土色帳と比較し、土の色からムタコ沢の森林土壌の特徴を分析するなどの講義がありました。また、赤谷プロジェクト自然環境保全モニタリング会議委員である国土館大学の中井達郎さんからは、森と水循環についての解説がありました。

森林再生講座では、赤谷センター職員がカラマツ林の保育作業を指導しました。昨年度実行した隣接箇所とこれから作業する箇所を比較し、間伐の重要性についてなどを解説しました。

普段は刃物さえ持ったことがない方も多く、思うようにカラマツを伐倒できない場面もありましたが、木が倒れるたびに歓声が沸き起こり、楽しく作業を行っていました。

赤谷センターでは、今後もこのような取組に協力を行い、地域住民の森林環境保全への関心を高めていきたいと考えております。



森と水循環についての解説



センター職員による間伐指導